

# 大屋式

## 坪刈試験用脱芒脱穀機取り扱い説明書

(OMMWO型)



合名会社 大屋丹藏製作所

事務所 〒452 - 0055 愛知県清須市西枇杷島町北二ツ杵74番地

TEL (052) 501-1867 FAX (052) 501-1877

工場 〒452 - 0064 愛知県清須市西枇杷島町旭2丁目73番地

TEL (052) 501-2821

URL : <http://www.ohyatanzo.com>

e-mail [ohya@drive.ocn.jp](mailto:ohya@drive.ocn.jp)

## 本機の特長

唐箕付きの為、共雑物と粕が分かれて出てきます。

作業は1人でも容易にできます。

扱き口の操作、排塵板の操作、脱穀板、脱芒板の差し替えが容易にできます。

唐箕の起風胴内は開閉板を開き簡単に掃除ができます。

無段変速装置付きの為、唐箕風力を微調整できます。

## 安全上のご注意

火災、怪我などの事故を未然に防ぐ為、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を全て熟読し、本機の知識、安全の情報等を習熟してから、本書に従って正しく使用して下さい。



**危険**

取り扱いを誤った場合に、危険な状況がおりえて、死亡又は重症を受ける可能性が想定される場合。



**注意**

取り扱いを誤った場合に、危険な状況がおりえて、中程度の障害や軽傷を受ける可能性が想定される場合、及び部的損傷だけの発生が想定される場合。

### **危険**

本機への注油、点検、補修作業等をされる時は、必ずメインスイッチをOFFにして電源コードを抜いてから行って下さい。

本機へ資料を投入する際は手を巻き込まれない様、十分注意して作業して下さい。

ベルトカバー等は必ず装着した状態で作業して下さい。

### **注意**

お客様による本機の改造は、当社の保証範囲外ですので、責任は負いません。

本機は突起した部分がある為、十分に注意して下さい。


## 各部名称



### 仕様書

形式	OMMWO型
全長×全幅×全高	780×870×1085
扱胴幅	430mm
回転数(r.p.m)	主 軸 約640回転
	唐箕軸 約640回転
重量	95kg
Vベルト	50Hz A-67×2本(モーター) / A-41×1本(唐箕)
	60Hz A-73×2本(モーター) / A-41×1本(唐箕)
電源	AC100V 750W
受箱	- 242

## 各部名称

名称	説明
排塵レバー	脱穀攪拌中、及び脱穀内部に資料が残留している時は、絶対にレバー操作はしないで下さい。 尚、レバーを強く押したり引いたりされると故障の原因になりますので注意して下さい。
唐箕風力調節ハンドル	 このハンドルは、左(反時計回り)に回すと唐箕風力が上がります。 注意事項 ベルトカバーを外すと、中に唐箕変速プーリーがありますので、その部分(バネ部分)には週一度の注油をお勧めします。尚、この部分が錆付いたり変形すると唐箕変速装置としての能力は失われますので注意して下さい。
唐箕風向板レバー	触らないようにして下さい。万一、触ってしまったりズレた時は、メモリの赤い線に合わせて下さい。
資料受箱	この箱は、奥まで差し込んで下さい。
排出口シャッター	藁屑等の有無、及び多少に関係します。基本はメモリの10位に合わせて下さい。
籾落とし口開閉レバー	このレバーは籾の流量調整等にも関係しますが基本的に全開でも構いません。
メインスイッチ	本機メインスイッチです。
脱穀板(8.5mm) 脱芒板(3.2mm)	籾の脱穀の場合は、脱穀板を差込んで下さい。麦の場合は、脱芒板を使用して下さい。一点の資料が終了しましたら脱穀板及び脱芒板を半分ほど手前に引き出すと扱胴内の残留資料が落下します。
扱口	資料は、ここから入れて下さい。

扱き胴内掃除をするときは必ず、扱き胴カバーを取り外してください。  
カバー取り外しの際、下記のフォーク引っ張りを先に外してください。

